

## ■ OnAir 3000 ニュース

### 株式会社南日本放送 様

OnAir 3000

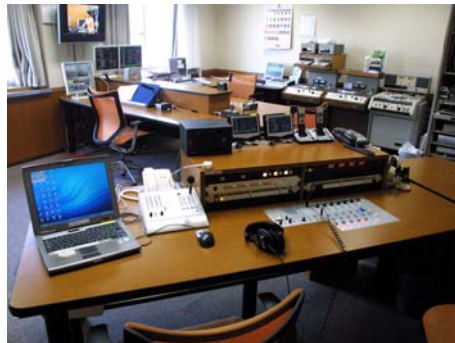


#### 全ラジオスタジオをOnAir 3000で更新

株式会社南日本放送様は、ラジオマスター設備と4つのスタジオを更新されました。2008年9月のCスタジオから始まり、同年10月Bスタジオ（前号参照）、12月にはマスターに隣接した緊急ニュース対応のMスタジオと続き、2009年2月の「展望スタジオ」の愛称で看板番組を運用するAスタジオまで、4台のOnAir 3000を納入しました。

A及びBスタジオは、同室にDJ/MC卓とディレクター卓（以下D卓）が配置されています。ワンマンスタイルでの操作性の簡素化の為、ロータリーモジュールを省略するとともに、原稿、キューシート等のスペース確保と作業性の向上を図るためフラットな卓を採用しています。DJ/MC卓のフェーダーにはマイクやCD等の素材を中心に立ち上げています。D卓は、電話・無線等の連絡系機器を設置し、フェーダーには電話回線等を立ち上げており、D卓を操作する番組アシスタントが中継の際に現場とのコーディネートを円滑に進める事ができるように工夫しています。D卓にも必要なモニター系統やメーター、制御表示パネ

ルを装備しています。番組に合わせて任意の素材をDJ/MC卓とD卓のフェーダーに自由に並べられるため、煩雑な番組ではD卓でも効果音や再生機を制御、ミックスを可能としています。また、例えばAスタジオの場合、ミックスバスは2卓で共通ですが、モニターやPFL（検聴）バスはそれぞれ独立して動作しています。OnAir 3000はモニターバスが4系統あるため、その機能を効果的に利用してシステムを構築しています。



### 西日本放送株式会社 様

OnAir 3000



#### 岡山サブにOnAir 3000を採用

西日本放送株式会社様は、2009年2月に岡山ニュースサブの放送設備を更新されました。ニュースサブという性格上、毎日の業務を確実にこなす安定性と、報道の方々でも簡単に扱えるシンプルな操作性が求められた結果、メインの音声卓としてSTUDERのOnAir 3000をご採用いただきました。STUDERの純正フレームに15本のフェーダーが納まり、すっきりとしたオペレーションデスクを構築しています。

